

茨城大学
短期海外研修
***** マレーシア *****

2018年3月4日(日)~3月18日(日)



報告集

グローバル教育センター

はじめに

2018年3月4日（日）～18日（日）、茨城大学の5名の学生がマレーシア科学大学での短期英語研修に参加しました。茨城大学は、マレーシア科学大学と2016年に学生交流協定を結び、今回が茨城大学からの初めての派遣となりました。2週間の研修で、参加者達はマレーシア科学大学が提供する英語の授業を受講しながら、マレー音楽のワークショップやマレーの伝統的な家庭でのホームステイ、世界遺産となっているジョージタウンの散策などを通して、現地の社会文化に対する理解を深めました。本報告集には、マレーシア科学大学での短期英語研修に参加した5名の学生のフィールドワークレポート及び体験談を収録しています。

今後マレーシア・ペナン島に留学、旅行する人々にとって有益な情報源になればと考えています。

瀬尾匡輝
茨城大学グローバル教育センター 講師
2018年4月

研修スケジュール

月日	都市	時間	スケジュール／宿泊地
1 3/4 (日)	成田 発 クアラルンプール 着 クアラルンプール 発 ペナン島 着	10:30 17:05 19:00 19:55	✦空路、ペナン島へ（經由便利用） 到着後、乗り継ぎ ペナン到着 到着後、現地係員と合流後大学へ 〈大学学生寮泊〉
2 3/5 (月)	ペナン 滞在	終日	マレーシア科学大学にて語学研修 〈大学学生寮泊〉
6 3/16 (金)			
7 3/10 (土)	ペナン 滞在	終日	ホームステイ 〈ホームステイ〉
8 3/11 (日)			
9 3/12 (月)	ペナン 滞在	終日	マレーシア科学大学にて語学研修 〈大学学生寮泊〉
13 3/16 (日)			
14 3/17 (土)	ペナン島 発 クアラルンプール 着 クアラルンプール 発	20:25 21:30 23:35	大学集合 現地係員と共に、空港へ ✦空路、クアラルンプールへ 到着後、乗り継ぎ ✦空路、帰国の途へ 【機中泊】
15 3/18 (日)	成田 着	07:15	空港到着、通関を経て解散

研修費用：¥205,570

研修参加費・宿泊費・航空券・現地の交通費・
海外旅行傷害保険代が含まれた費用



3月4日 成田空港にて



3月10-11日 ホームステイ



3月5日 ウェルカムセレモニー



英語の授業



バディ（現地の学生）との交流

マレーシア科学大学

マレーシア科学大学は、マレーシアのパナン島にある国立大学だ。科学大学という名前ではあるが、学部が24もある規模の大きな総合大学である。マレーシア科学大学の先生によると、1969年の創立当初は、科学系の学部しかない大学だったため科学大学という名前になったが、その後様々な学部が追加で創設されていったという。理系の学部は、数学、化学、生物、物理、地学、建築などがあり、外国語学部や文学部、社会科学部、経済学部など文系の学部も多くある。教育学部もあり、教員養成にも力を入れているという。私たちは2週間、外国語学部の教室で英語を学んだ。



大学の敷地はとても広く、敷地内を複数のバスが走っている。バスによって行き先が違うが、外国語学部へ行くにはCかDに乗ればよい。マレーシアはとても暑いが、エアコンの効いた室内が近くになく移動するのが面倒な場合は、バスに乗って大学内を回りながら涼むこともできるとバディーたちが教えてくれた。

大学内には、レストランがいくつかある。私たちは毎朝、Subaidahというインド系のレストランで朝食をとった。ここには、ライスや麺、ナンのような生地のroti canaiという食べ物があった。他にも学食のようなところや中華料理のレストラン、カフェがあり、お昼にバディーたちに連れていってもらった。値段が安くとてもおいしいので、食事時には多くの学生で賑わっていた。また、レストランやカフェ以外にも、飲み物や軽食を販売している小さな屋台がたくさんあった。生協のコンビニのようなお店もあり、食べ物はもちろん、文具や生活用品まで揃っていた。



マレーシア科学大学には、図書館が2つあった。1つは比較的新しく、マレー語の本はもちろん、英語の本も数多くあった。また、日本の文化や日本語に関する本もたくさんあった。バディーの中には、今、大学で日本語を勉強しているという学生もいた。本棚の側面には、マレー語や英語で格言が書いてあり、それを見ながら図書館の中を歩き回っているだけで心が躍るような空間だった。個人で勉強できるスペースもグループ学習室も十分にあり、勉強に集中できる環境が整っている。実際、多くの学生が学習室を利用していた。もう1つの図書館は、古い本がたくさん置いてあり書庫のような雰囲気だった。マレー語の書物に加え、日本や中国など、マレーシア以外の国の1970年代ぐらいからの新聞や雑誌もあった。新しい方の図書館に比べると利用者が少なかったが、人が少ないため落ち着いていて集中しやすい雰囲気であった。

大学内に博物館があり、先生とバディーたちに案内してもらいながら見学した。科学や物理、工学系の学生の研究成果が展示されていた。また、考古学の展示もいくつかあり、マレーシア科学大学には、考古学の分野で有名な先生がいて先生が教えてくださった。それだけでなく、マレーシアの歴史に関する展示や、マレーシアの伝統的な衣装や遊びが紹介されているコーナーもあり、そこでチョンカと呼ばれる伝統的な遊びを先生やバディーに教えてもらいながら実際に体験した。



マレーシア科学大学は、東レと共同研究を行っているそうで、東レの建物もあった。私たちは、その建物内の一室で、マレーシア科学大学の学生たちや留学生と一緒に「ロボジー」という日本の映画を鑑賞した。

もし体調が悪くなっても、大学内には病院があり、学生証を提示すると丁寧に対応してくれるとのことだった。

また、大きなグラウンドやプールがあり、運動できる環境も整っていた。グラウンドでは、夕方サッカークラブの人たちが練習をしていた。プールは、マレーシア科学大学に通っている人なら、水着を着て水泳用の帽子を被れば誰でも使用できるそうだ。

大学の入り口にはモスクがあり、イスラム教の学生がお祈りをしに行っていた。

敷地がとても広く移動が大変ではあるが、本当にたくさんの施設があり、とても恵まれた環境で大学生活を送ることができるといった。実際に2週間通ってみて、不自由を感じることは全くなく、有意義な生活を送れた。

文責：富岡里奈（人文社会科学部1年）



ペナン島の交通手段

ペナン島には電車はなく、飛行機、バス、タクシー（Grab、Uberを含む）、個人車、バイク、自転車、徒歩が交通手段であった。飛行機はクアラルンプール空港からペナン国際空港に移動する際に利用した。そのときは、およそ1時間かかった。

バスは宿泊していたレクサムから大学へと移動する際に用いた。バス停で10分ほど待っているとバスがくる。現地の人のお話によると、バスの時刻表はないらしい。1度、講義が終わったあとの16時ごろ、大学からとある目的地まで移動するためにバスを待っていたことがあったが、1時間ほどバスが来なかったことがあった。帰宅ラッシュのせいか、待ったあとに現れたバスはやや混雑していた。また、大学内でも大学専用のバスは走っており、日中は暑く、大学が大変広いので、移動にはすごく便利だなと思った。

今回の滞在でGrabにはかなりお世話になった。Grabとは、バスのように乗合ではなく、個人グループで利用するタクシーのようなものである。初めてペナン島に来た私たちは、土地勘がなく、暑い日差しの中で歩き回れるわけではないため、これをたくさん利用させてもらった。Grabはタクシーよりも格段に安く、Grabが到着するまでの待ち時間がおよそ3分から20分で利用しやすかった。一般のマニュアル車からヴェルファイアまで車の種類は様々であった。車の種類が幅広かったことから、Grabの運転手を副業としてやっている人もいるのではないのかなと思った。個人的な意見だが、日本だと副業に寛容的ではない会社があったり、二重免許が必要であったりするためあまり流行らないのではないかなと思った。Grabはあまりしゃべらない運転手から気さくに話しかけてくれておもしろい運転手まで幅広かった。出発地点が悪いと運転手からキャンセルされてしまうこともあるが、タクシーと比べて安価であるため非常に良かった。ちなみにUberもGrabと同じような仕組みになっているらしい。

バイクは日本以上に多くの人々が利用していた。ペナン島では、車やバイクの利用が多かった。小回りの利くバイクが車と車の間を通り抜けていく光景が多々あった。信号待ちの先頭車の前には、10台くらいのバイクがあることがほとんどだった。バイクはたいてい一人だけ乗っているが、ときには3人、4人も乗っていることもあった。子供はヘルメットなしで乗ることがほとんどであった。

自転車を利用している人は少なく、1日に1台見られればよいほうだった。自転車に乗っている人はバイクと同じ車道を大概走っており大丈夫なのか心配になった。車道の最高速度は70km/hであり、ほとんどの車がその時速かそれ以上の時速を出しており、自転車は車道を走るべきではないと思った。

徒歩についてだが、大学近辺やレクサム（宿泊施設）周辺で歩いている人はほとんど見かけなかった。宿泊施設前は片側3車線道路であった。付近に横断歩道はなく、大学から宿泊施設に帰るとき、宿泊施設前のバス停に着いた後、この道路を横断しないと帰ることが出来なくなっていた。マレーシアでは、この横断は一般的なやり方らしい。世界遺産であるジョージタウンでは徒歩の人は多くもなく少なくもなかった。こちらのエリアは片側3車線の道路は多くなく、歩行者にとって歩きやすいようになっていた。

信号は大きい道路の場合だと、片側のみで3種類あった。右折、直進、左折の3つだ。それぞれに赤、黄色、緑の信号があり、日本とは違っていた。場所によっては緑や赤の継続時間を表示していた。これに気づいたとき、マレーシアの人はせっかちなのかなと思った。



宿泊施設から大学までのバスチケット

ペナン島について

ここでは自分達が訪れた場所をもとにペナン島の名所、魅力を述べたいと思う。

1) 様々な宗教・民族が共存するジョージタウン

ジョージタウンはペナン島の中心で植民地時代の町並みや一大貿易港にふさわしい多民族多文化社会が色濃く残されていることが評価され2008年にユネスコ世界文化遺産の登録を受けた。

ジョージタウンには中華系、マレー系、インド系などの多様な人々がおり、そのため宗教、料理など到るところにその多様さが表れている。



①クーコンシー(邸公司)

中国から移住してきた邸一族が建てた寺院。邸一族の先祖の名前が一面に書いてある間があり、その昔邸一族が築いた歴史を垣間見ることができる。



②コーンウォリス要塞

1786年にキャプテン・フランシス・ライトと呼ばれる人が初めてペナン島に上陸した際に作られた要塞。コーンウォリスとは当時の東インド会社提督の名前で大砲などが今も残されている。



③リトルインディア

ジョージタウン内にあるインド人街。インド系の飲食店や商店のほか、ヒンドゥー教の寺院であるマハ・マリアマン寺院がある。



④ジョージタウン随所に散りばめられたストリートアート
ジョージタウンはウォールアートやワイヤーアートでも有名であり到るところで見ることができる。中でも一番有名な壁画は自転車に乗る子どもが描かれているもの。ペナンのお土産品の中でも見かけることができる。



⑤コムター

ジョージタウンにあるペナンで最も高い巨大なタワー。街のランドマークとして多くの人に親しまれている。中に入ることもできショッピング等を楽しむことができる。



⑥レッドガーデン

ガーニードライブと並んで有名な屋台村。席に着くとドリンクの注文をとり店員が来てくれる。ドリンクの注文が済んだあとは食べたい料理のある屋台に向かって注文する。この際テーブルにある番号を伝えることでドリンク同様屋台の店員が運んできてくれる。



⑦セント・ジョージ教会

東南アジア最古のイギリス教会。1818年に建築された。研修期間中に中に入る機会には恵まれなかったが、中にはペナン島の歴史的人物であるフランシス・ライトの初上陸について記した展示があるらしい。



2) ペナンで人気のビーチ、バトゥ・フェリング

バトゥ・フェリングはペナンで最も人気のあるビーチである。マリナクティビティが盛んでジェットスキーやウインドサーフィンなどを楽しむことができる。また、ここから見える日没は非常に眺めがよいため是非おすすめしたい。現地の人々がキャッチをしているが皆フレンドリーなためあまり警戒する必要はなかった。夜になると周辺でナイトマーケットも開かれているためそちらも覗いてみることをおすすめする。



3) 極楽寺が通称のケックロックシー

ガイドブック等には極楽寺の名で呼ばれている仏教寺院。山の斜面に建っており寺の最上部に行く際にはケーブルカーがでているためそちらを利用すると良い。最上部には立った仏像があり観光客で賑わっていた。



4) ペナンを一望できる場所、ペナンヒル

麓からケーブルカーに乗り標高692mの頂上へ。頂上からはジョージタウンやペナンブリッジなどペナンの街を一望することができる。頂上では飲食物を買うことができちょっとした休憩や食事を取ることができる。



5) 巨大な横たわった状態の仏像が見れる寝釈迦仏寺院

世界にも珍しい横たわった状態の仏像があるタイ式寺院。立った仏像でも珍しいのだから横たわっている仏像はとても新鮮であった。寺院の外観や内部の装飾にタイ式であることを実感できる造りが見られる。



6) ペナンで有名なショッピングモール

クイーンズベイモール・ガーニープラザ・ガーニーパラゴン

ペナンには上に挙げた3つを含めたいくつかの有名なショッピングモールがあり有名ブランド品やお土産などを買うことができる。中に入っている専門店の種類はどれも似たようなものであった。



7) ペナンで有名なもう一つの屋台街、ガーニードライブ

ペナンではレッドガーデンと共にガーニードライブという屋台街も有名。注文方法はレッドガーデンと同じ。地元の人々にはこちらのほうが認知されているようでレッドガーデンのことをバディ達は知らなかったようだった。



文責：対馬謙一（工学部2年）

ペナン島における建築様式について

ペナン島はかつてイギリスの支配下であり、東西貿易の十字路であるマラッカ海峡に位置する地の利を生かして自由貿易港として栄えていました。しかし、のちに貿易の拠点がペナンからシンガポールに移り、海峡貿易の中心地はシンガポールになっていきました。これらの経緯から様々な人種や文化が交錯しており、島内、とくにジョージタウンにはイスラム教、仏教、ヒンドゥー教のモスクや寺院がいたるところで見つけられました。入植地となったジョージタウン北西部はコロニアル様式の建築物が多く残っており、世界遺産として登録されています。ほかにも、リトルインディア、プラナカン建築の建物も入り混じっています。

コロニアル様式とは植民地時代の建築様式のことです。植民地様式ともよばれています。特徴として、建物の正面にポーチが付き、大きな窓やベランダがあります。アメリカなどでは主に木造で板を横にはった壁になっています。日本でも明治以降、長崎や神戸などオランダと貿易していたところでは外国人居留地の住居として用いられていました。ペナンの高級ホテルなどではコロニアル様式で作られているものが多くありました。



プラナカンとは15世紀後半からマレーシアやシンガポールにやってきた、中華系移民の子孫のことを指します。彼らは現地の女性と結婚し、元来の中国文化にマレー文化とヨーロッパ文化を混合させ独自の生活スタイルを作り上げました。プラナカンの建築物は、1階が店舗や事務所で、2階が生活スペースになっています。これらはショップハウスと呼ばれており、純粋に住居として使われているものをテラスハウスとも呼ばれています。特徴として、外壁は明るいパステルカラーとなっており、間口は狭く、奥行きが深くなった作りになっています。数件が繋がった長屋のような状態で建てられ、玄関前の通路はアーケード状になっています。西洋の過去の建築様式を復古的に用いるネオ・ゴシック様式や絵画や彫刻などの芸術を用い複雑さや多様性を示すバロック様式などの西洋のスタイルが多く取り入れられています。これらの建物はよよい窓やレリーフなどで彩られており、華やかになっています。これらの建築物はジョージタウンのチャイナタウンでよくみかけられました。ストリートアートと合わせてみることができ、芸術の街としてとても興味深いものとなっています。

ジョージタウンから少し離れた位置にある町の建築様式はプラナカン様式やコロニアル様式とは違うものが多くありました。なかでも多くみられたのは平屋の建物でした。二階以上の建物はショップと兼用しているかマンションだけでした。屋根は地面に対して水平のものや斜めのものが入り混じっていました。中には屋根が壊れたままの状態で見捨てられていたものもありました。

私がペナンで滞在させていただいた寮では高床式建築物となっていました。高床住居は床面が地面から離れているため、通風性に優れ、熱帯周辺の湿潤な気候に適した建物になっています。住居のドアの下にも少し空間があり、通気性の良いものとなっています。加えてスコールなどの影響もあり、洪水などの地表面からの水の侵入を防ぐ役割も持っています。このため海岸にも高床式の建物がみられ、海上にまでつくられていました。スコールなどの影響による洪水や浸水被害を減らすための対策は高床式の建築物だけではありませんでした。排水溝もかなり深く掘られていました。日本のものと比べると5から6倍近くの深さがあり人ひとり分以上の深さがあるようなものもありました。道路などコンクリートで固められたような場所ほど深く、木や土が多く自然が多いところは比較的浅くなっていました。

ペナンでもっとも面白く感じた建物は極楽寺 (Kek Lok Si) でした。この建物は仏教寺院であり、アイルイタムの丘の上にあり、数多くの建築物が存在しています。寺院は現在も拡張工事中で、私が訪ねた時も工事の真っ最中でした。特徴としては巨大なパゴダ (万仏宝塔) と巨大な観音像があります。非常に目立つパゴダは3つの様式を持つ建物です。下層は中国式の八角形の塔で、中層はタイ式、上層はビルマ式という奇抜な構造となっています。様々な文化が入り混じるペナンにおいても建築様式が混ざられたものは見られなかったためとても珍しく感じました。

ペナンに滞在した2週間で街を歩き、様々な建物を見ました。ヨーロッパのような街並み、インドのような街並み、中国のような街並みこれらがいたるところで見られ、そこで様々な人種の人々が暮らしています。日本ではこれらの建物はめったに見られないものでとても興味深いものでした。マレーシア以外の国はどのような建物があるのか実際に見てみたいとなりました。

文責：大谷仁貴 (工学部2年)



甘い、辛い! でも美味しいマレーシアの料理

二週間の短い間だったがこの研修中にたくさんのマレーシアの料理を食べることができ、また大変暑い気候のためたくさんの現地の飲み物を飲んだ。ここでは私が現地で味わったマレーシアの食べ物や飲み物の中でお勧めを紹介する。

食べ物

Roti

マレーシアでは定番の朝ご飯の一つであるこのRoti は簡単に言うとナンみたいなやつを薄く伸ばして焼いたものである。それをスープカレーみたいなのにつけながら食べる。焼く際に卵や玉ねぎを入れたり、ジャムやバナナを入れることができたりしてほぼ毎日食べていたにも関わらず飽きずに食べることができた。ちなみにおすすめはkayaというジャム入りのRotiである。

USMの中にはこのRotiを食べられる店があり、多くの学生でにぎわっていた (Subaidahって店の名前)。

皆さんにもぜひともここで美味しい朝ご飯を食べてもらいたい。



Nasi goreng

マレーシアと言ったらやっぱりこれ！チャーハンみたいなものでたくさんの味がある。私のおすすめはChiliである。私の泊まったHotel（Reccsam International House）内にあるレストランのNasi Gorengが一番美味しかった。大体の味が辛いので苦手な方はcinaという味を選ぼう。

飲み物

Tea

マレーシアの屋台やレストランでよく見られる。特徴としてとてつもなく甘い。最初は慣れない甘さかもしれないが日本に帰るころにはこの甘さに病みつinaなっていることであると思う。普通にteaとだけいうとmilk入りで出てくるのでmilkなしを頼みたい方はTea oと伝えればokです（oはmilkなしという意味らしい）。また屋台ではこのビニール袋に飲み物を入れるスタイルが定番である。レストランでも「イカタピ」と注文すると大体これで出してくれる。



デザート

Ice Kacang

最初見たときはなんだこれと思った。しかし食べてみると意外とコーンがあったりして美味しかった。マレーシアにはこんな見た目はちょっとあれだけど美味しいデザートがたくさんあるのでぜひトライするべし。



番外編 日本料理 in マレーシア



クイーンズベイモールというショッピングモール内にはたくさんの日本料理があり、イオンも入っているため築地の魚やお好み焼きのお惣菜などがあってとても懐かしくなる場所である。中でも「雅」というラーメン屋さんが大変美味しかった。本店が北海道にあるらしく本格的なラーメンを食べることができた。そして何より店に入った瞬間に「いらっしゃい」と日本語で言われたときは思わず懐かしさのあまり涙を流しそうになった。

おすすめの場所—レッドガーデン

ペナン島の中心であるジョージタウンにある屋台街。コムタから歩いてすぐにある。ここは観光客だけでなく現地の人も利用するようでたくさんの人でにぎわっていた。注文の仕方は店の前に行って食べたい料理名とテーブルの番号を頼むといった感じ。海沿いにあるガーニドライブと違って屋根があるので突然の雨でも大丈夫！



料理の補足、注意点

1. 宗教上の関係から主に食べられる肉が鶏肉のみとなっているので覚悟を（そのためケンタッキーが至るところにある）
2. 基本安い！
大体一食100円、200円の世界なのでいくら食べても大丈夫！
是非ともさまざまなローカルフードにチャレンジすべし
3. お腹に注意！

基本的に日本人にとって甘すぎたり、辛すぎたりする料理がほとんどなので食べすぎに注意。特に飲み物のサイズなんかは一番小さいサイズで十分。また水道水は飲めないため店で水を買いましょう（一本30円未満）。そのほかに生の魚なんかは危険なので屋台で刺身と言っても食べないように！

文責：小林大樹（工学部1年）

伊藤美穂（理学部2年）

辛いものがマレーシア料理には多かった一方、マレーシアには中華系の人が多かったため、中華料理もあった。日本に比べて物価が安いので、1食300円以内でほぼ済ませることができた。その一方で、マレーシアにも日本食はあったが、日本と変わらない価格であったため、ラーメンの場合だと750円かかった。



Teh o
&
Nasigoreng cina



Orange juice & Roti telur bawang

 A photograph of a meal consisting of a glass of orange juice with a light blue straw and a plate of Roti telur bawang (egg and onion roti) served with a bowl of soup. The food is placed on a dark red surface.

Roti telur bawang

10

短期海外留学の感想

大谷仁貴（工学部2年）

私は今回、短期海外留学としてマレーシアに滞在しました。私がマレーシアを選択した理由は滞在先が世界遺産の街として知られており、物価が安いからです。留学しようと決意するには時間がかかり、行く直前まで不安感にかられていました。実際最初の2日間は慣れないこともあり、少しおどおどしていました。英語がうまく聞き取れず、相手が何を話しているのかわからないことも多々ありました。しかし、3日目以降は生活にも慣れ、ある程度聞き取れるようになってからは楽しんで生活することができました。

日本を出国した当時は3月のはじめで、気温は低く、まだ肌寒い印象がありました。マレーシアは熱帯気候ということもあり、とても暑く、湿度が高くなっていました。そのため日本との気温差に慣れず、体調を崩す人も少なくありませんでした。私は暑いのが少し苦手で、汗が止まりませんでした。現地の人たちが汗一つかかず平気な顔をして歩いているのが正直信じられませんでした。

ペナンでの食事はとてもおいしかったです。よく海外に行くと言っていた食事が合わなかったりして、おなかを下すことが多いと聞いていました。しかし、私は食べものが体にあっていないのか特におなかを下すことはありませんでした。一度だけ向こうでおなかをくだしましたが、その原因は現地の水道水を煮沸せずにそのまま飲んだためでした。日本の水道水は水質基準がとても高く飲むことは可能ですが、海外ではそこまで高くないためそのままでは飲料としては使えません。日本が特殊であってほかの国ではこれが普通です。ペナンの食べものはほとんどのものが辛く、飲み物は非常に甘いものが多かったのです。私が特に気に入った食べ物は瀬尾先生に連れて行っていただいたレッドガーデンのチェンドゥというデザートです。それはかき氷のような冷たいもので暑い気候に丁度いいものでした。私は辛いものがあまり得意ではありません。そのため辛い物を食べるたびに汗をかいて大変でした。そのため辛い物を食べるたびに海外の友達に「Is this spicy?」と言われて、からからかわれていました。次行くときは辛いものに慣れてから行こうと思っています。向こうの飲み物は非常に甘かったです。緑茶や豆乳ですら甘かったです。向こうで飲んだもので甘くない飲み物は水とウーロン茶だけでした。向こうで甘くない飲み物を探してみるのも面白かったのではと思っています。

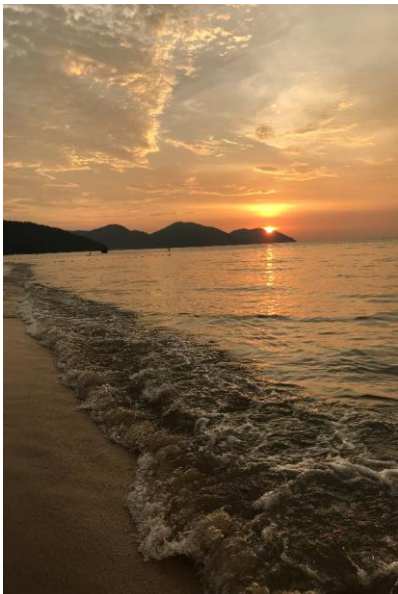
授業はとても新鮮に感じました。日本では授業がすべて英語で行われることはありません。そのため現地の先生が話したことを真剣に聞くような状況だったため時間もあっという間に過ぎていきました。教室には机がなく、イスに小さな台が付いたものだけでした。授業内容は話すということに重点を置いていたためとてもためになるものでした。



ペナンの街並みは私にとってとても興味深いものでした。ジョージタウンは世界遺産の街として知られており、日本では見られない光景でした。いたるところに寺院があり、かつ様々な宗教が入り混じり、色鮮やかなものが多かったのです。ストリートアートも様々なところで見られ、デザインも多くありました。私はあそこなら何回行っても飽きないぐらい面白いものでした。

バトゥ・フェリンギビーチ（Batu Ferringhi Beach）はサンセットとナイトマーケットが有名だったため、見たいと思い最後の最後によく見に行くことができました。噂以上にサンセットは綺麗で、ナイトマーケットは活気にあふれていました。サンセットは意地でも見に行ってもよかったと思っています。ナイトマーケットは客引きが想像以上に強く、断り切れない人は買わされてしまいそうになるかもしれません。

今回ペナンでの生活は初めての体験が多く、とても良い経験になったと思います。クリニックに行ったり、ものを無くすなど、トラブルはいくつかありましたが、なんとかだったので良かったと思っています。雨に降られることもあまりなく、いろいろなところには行けました。2週間では行きたいと思っていた場所すべてにはいくことができませんでした。また機会があればペナンに行き、今回いけなかったところに行ければと思っています。



不安と新たな課題

小林大樹（工学部1年）

私はこの春初めてマレーシアを訪れた。二週間という短い間だったが毎日がとても充実していて楽しかった。しかしながら、私はマレーシアに行く際に一つだけ不安なことがあった。

それは言葉の壁である。自分の英語がいかに通じるのかが不安であった。実は私は高校二年生の時に学校の研修旅行としてアメリカに行ったことがあり、言語の壁に苦しんだことがあった。その時はなんとかジェスチャーや写真を使って自分の言いたいことを表現することが出来たが、とても「会話」をしている感じではなかった。しかし、今回の研修では完璧とは言えないがある程度の会話ならできるようになっていて自分の成長を感じることができた。やはり会話ができると相手もいろいろな話をしてくれるし、知らない人ともすぐに仲良くなることができアメリカに行った時とは比べ物にならないくらい楽しかった。特にGrabというタクシーのドライバーのお兄さんの話が面白く、乗っている間ずっと笑わされつづけた。彼は中国系の方でマレー語と中国語を話すことができ、またお客さんと会話しながら英語のスキルを身に着けたそうだ。現地の人の多くは日本人と同じで英語が第二言語にもかわらず流暢に話し、母国語と英語を場面によって使い分けていてとても驚いた。しかも大学の授業はほとんどが英語で受けるそうだ。「どうしたらそんなにうまく話せるようになるのか？」先ほどの面白いタクシードライバーのお兄さん曰く「とにかく話す場を設けて話すこと」らしい。自分も日頃から英語に触れてもっと話せるように頑張ろうと思った。



このような感じでマレーシアに行く前に感じた不安はなくなったのだが、現地の人とたくさん会話するうちに一つの新たな問題が見つかった。その問題とは「母国である日本のことについて知らなすぎる」ということである。マレーシアのパナン島はマレー系、中国系、インド系などたくさんの国の人々が集まっている。そのため初めて会った人と自国の文化や言語を教えながら交流を深める機会がたくさんあった。しかし、私は言語はある程度教えることが出来たものの日本の文化についてあまり教えることができなかった。たとえば現地の大学の先生に「芸者ってなに？」と聞かれた際にはその場ですぐに答えることが出来ず、後日ネットで調べて教えるというなんともなさけないことをしてしまった。基本的に海外の人に日本の文化について尋ねられるのは伝統的文化か若者の場合はアニメが個人的には多い気がする。私はアニメを見るのが好きなのでこっちは問題ないのだが、伝統的文化に関しては中学の教科書で少しやった程度なので今度海外に行くまでに調べてしっかりと日本について紹介したいと思った。余談ではあるが現地の人が知っている日本語が独特で興味深かった。特に現地の英語の先生がいきなり「それな！」といったのはとても驚いた。しかもただ言うだけでなく「それな」を言うタイミングもばっちりで見ごとに使いこなしてる姿を見て数年後には「それな」がマレーシアで流行っているかもしれないと考えたとおもしろかった。そのほかにも、「過労死」や「ビックリした」などどこでそんなの覚えたと思わず突っ込んでしまいそうな日本語を知っていた。

短い研修旅行だったが、自分の持っている不安を解消でき新たな課題をみつけることができとてもいい経験になった。特に自分がいかに自国の国のことを知らないかは実際に外国に行かないと気づくことが出来ないの、マレーシアに行くことで自分の勉強不足を知ることが出来た。また他国の言語や文化に触れることで日本と比べることができ、改めて日本の良さや悪いところを客観的に見ることが出来た。特に今回は2週間だけだったが、次からは1か月から半年くらい留学をして自分の英語力を鍛えるとともに他国の様々な文化を吸収したい。



プログラムに参加した感想

対馬謙一（工学部2年）

初めは自分の語学運用能力の低さから英語圏で留学してみたいという気持ちから始まった今回のプログラム参加だったが非常に多くの経験ができた。今まで海外に行った経験がなかったこともあり、マレーシアで見たもの触れたもの全てが新鮮で日本との文化の違いを身をもって感じる事が出来た。2週間という期間は多少短い気がしたがそれでもマレーシア科学大学のバディ達が私達に親身に付き合ってくれたこともあり、毎日授業後に空いた時間を活用してペナンの名所を巡ることができ、充実したものとなった。

ペナンについてまず感じたことは日本との気候の違いだった。ペナンでは連日まるで日本の夏のように暑く、湿気のある気候が続いた。日本の冬と比べれば過ごしやすと感じたが建物内は外の暑さと打って変わって空調機器が効きすぎており、そのせいか研修の後半に体調を少し崩してしまった。お陰でマレーシア科学大学内の病院にて診療を受けるという初めての海外で珍しい経験をすることが出来た。

第二に感じたことはコミュニケーションを取る手段としての英語の有用さだ。マレーシアは多民族・多文化国家であり、信教を始めとする様々なバックグラウンドを持つ人々が共に暮らしている。そのためもちろん日常生活で用いられる言語も違っており、マレーシアの人々はマレー語を母国語として学び英語も使える人が非常に多い。異なるバックグラウンドを持っていても英語を話せることでコミュニケーションを取ることができるというのは普段は島国で母国語である日本語のみを用いて生活している私に大きな気づきを与えてくれた。今の自分では英語を用いたコミュニケーションが決して難く行えているとは言えず、リスニング力が乏しいために相手の言いたいことが一度で伝わらなかったり、語彙や文法知識の基礎が確立されていないから自分が伝えたいことを瞬時に英語にすることが出来なかったりとまだまだ自分の語学運用能力が乏しいことを思い知らされた。多少悔しい思いをしたが今回の経験は今後も英語学習を続けていく上でモチベーションに繋がる貴重な経験になった。この経験を活かして今後も英語学習により一層取り組んでいきたい。



他にも、マレーシアの食生活にも衝撃を受けた。日本では大体は箸を使って食べるものをマレーシアでは左手にフォーク、右手にスプーンを持って食事をする。右手にナイフならまだわかるのだがスプーンを持って食事をするのはなかなか新鮮で慣れるまでに苦労した。また、マレーシアではイスラム・ヒンドゥー教徒がいることもあり、肉は食事にはほとんど出てこず、代わりに魚が出てくることが多かった。カレーにも魚が入っていることが多く、日本ではあまり見られないがつつ切りになった魚が入ったフィッシュカレーはフォーク・スプーンを用いた食事と合わせて慣れるまで苦労した。マレーシアの食べ物のほとんどは辛い味付けがされており、辛い物好きである私は非常に幸せな気持ちだったが辛いものが苦手な友人は食事が少しつらそうだった。マレーシアの飲み物事情も日本とは異なっていて、水道水はまず飲めないため飲料水を買って生活した。

また、紅茶などの飲み物を持ち運びができるようにとビニール袋に詰めたものがありその物珍しさに驚いた。加えてマレーシアでは日本にも置いてあるミロが有名で道端やナイトマーケットの屋台でも購入することができる。味は至って日本のものと同じだったのでそこは残念であり安心もした。

マレーシアの名所で最も心に残ったのはバトゥ・フェリンギビーチであった。ペナンで一番有名とだけあって平日にもかわらず多くの人で賑わっていた。また、日本人だとわかるのか現地のキャッチの人がかなりの頻度で話しかけてくることがあった。中には流暢な日本語を話す人もいて驚いたと同時に面白かった。最初はキャッチのその勢いに困惑したが、いい人たちがばかりだとわかり慣れてくると街中で英語を話すよりも緊張せずフランクに話せるようになり良い経験になった。ビーチから見る日の入りは格別で日本で見るそれより何倍も心に残った。

もちろんペナンで最も有名と言っても過言ではないジョージタウンも心に残った。ジョージタウンは研修2週間の中で何度も行く機会に恵まれたが行く場所によって住んでいる人々、建築物の様式など全然雰囲気が違うのが面白かった。イギリス統治時代の古き良き町並みや数多くの宗教に関する建築物、特に後者は宗教に関心の薄い日本ではあまり見られない寺院を数多く見ることができ、宗教が食事等の人々の暮らしと密接に関わっていることを改めて実感させられた。帰国数日前に訪れた際にジョージタウンでみた夕焼けは非常に綺麗で今回の研修をより思い出深いものにしてくれた。

最後になってしまうが現地まで私達を送ってくれて、初めてのジョージタウンを案内していただいた瀬尾先生、日々の授業や授業後の時間を共に過ごしていただいたマレーシア科学大学の先生方とバディーへの感謝を述べて終わりたいと思う。沢山の人の協力のおかげで数多くの大変貴重な経験ができた。折返しに入った大学生活、悔いの残らないように今回の経験を糧に頑張っていきたい。また、機会に恵まれる事があれば今度はより長期の留学や海外ボランティアなどにも取り組んでみたい。これまでの自分の視野を広げるよいターニングポイントになった研修であった。Terima kasih!!(マレー語でありがとうの意)

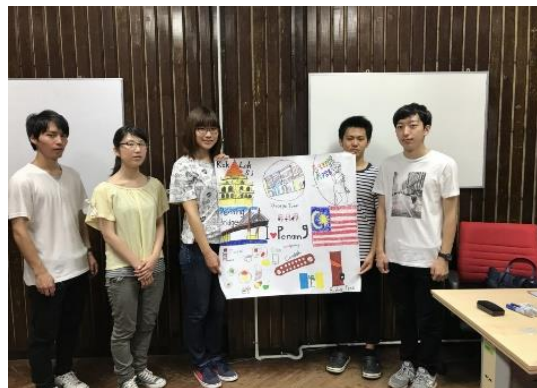
マレーシアでの生活

富岡里奈（人文社会科学部1年）

3月4日から18日の2週間、マレーシアのペナン島に滞在し、マレーシア科学大学での英語語学研修に参加した。

中学・高校時代から英語に興味を持っていたが、ただ受験勉強をしているだけで、英語を話す機会はほとんどなかった。高校時代から、大学に入ったらスピーキングの力を向上させたい、海外に行って英語でコミュニケーションをとってみたいという思いを持っていた。このプログラム以外にも、長期休暇に行われる短期語学研修はあったが、他のプログラムと比べて安い費用で参加できし、多民族国家であるマレーシアで、英語を学ぶことはもちろん、それだけでなく様々な文化に触れ視野を広げたいと考え、このプログラムに参加することに決めた。

マレーシアに着いた日、ウインカーも出さずに車線を変えてとばしていく車ばかりで驚き、マレーシア科学大学の関係者に案内していただき宿舎に行くと、日本のホテルとは違った部屋の雰囲気に戸惑い、ここで2週間生活して行けるだろうかとても不安になった覚えがある。しかし、向こうでの生活にもすぐに慣れ、もう日本に帰らずにここで暮らしたいと思うくらい、とても充実した毎日を過ごすことができた。



マレーシア科学大学で英語を専攻している学生たちが、バディーとして付いてくれた。平日は、午前2時間、午後2時間の計4時間、大学で英語の授業を受けた。授業担当の先生が、英語で話す時間を多くとりたいという私たちの要望を受け入れてくださり、スピーキングがメインの授業となった。マレーシアに来て感じたことを発表したり、日本の文化を紹介したり、イラストを見てそこに描かれていることを説明したりと、様々なテーマについて話した。最初は、自分の話す英語は文法的に間違っていないか、自分の言いたいことを英語でうまく伝えられるかという不安があり、英語を話すことに恐れがあった。話したいことはたくさんあるのに、それをすぐに英語にすることができず、もどかしい思いをすることも何度もあった。しかし、日が経つにつれ、文法を気にしすぎず、とにかく自分の言いたいことを言葉にすると相手も真剣に聞いてくれるということがわかり、恐れずに英語を話すことができるようになっていった。そして、英語でコミュニケーションをとるのが楽しいと思うようになった。スピーキングだけでなく、長文を読んだり、英文法を英語で学んだりする時間もあった。これまで英語を英語で学ぶ機会はありませんでしたので、とても新鮮に感じた。授業後には、ペナンで有名な観光地を回った。

土日に、1泊2日のホームステイのプログラムがあった。村の子供たちと釣りをしたり、マレーシアの伝統的な遊びを教えてもらったり、村のフェスティバルを見に行ったりと、盛りだくさんな内容だった。村には、10歳前後の子供たちがたくさんいたが、積極的に英語で話しか

けてくれたことに驚いた。また、幼い頃日本に住んでいたことがあるという子供もいて、大人たちの話すマレー語を日本語に翻訳してくれたこともあった。大学での授業とは違い、英語力を向上させることよりも異文化体験をするという意味合いが強かったが、様々な文化に触れることができ、刺激を受けた。特に、ホストファミリーに連れていってもらい、村で、ゴムの木から樹液を採取したことが印象に残っている。映像でしか見たことがなかったことを自分で実際に体験でき、貴重な経験になった。



今回の研修を通して気づいたことがいくつかある。まず、日本に住んでいながら、日本のことをよくわかっていないということだ。先生やバディーたちに日本の文化について聞かれることがあったが、英語が出てこないという以前に、そもそもそのことについてよくわかっていないために答えることができないということが何度もあった。逆に、私がマレーシアのことについて尋ねた時には、先生もバディーたちもいろいろな情報を教えてくれた。自分の勉強不足を痛感し、普段から視野を広くもって、身の回りの様々なことに目を向けていかなければならないと考えた。また、失敗を恐れずに挑戦することの大切さも学んだ。間違った英語を話していたら恥ずかしいと考えて話すことを恐れていると、いつまでも上達しない。これは、英語学習に限ったことではないと思うので、学生のうちにいろいろなことに挑戦したい。さらに、マレーシアに行ってから、以前より寛容になれたように思う。前までは、様々な文化や考え方があるということのを頭ではわかっていながら、自分とは異なる考え方を受け入れることができないことが多かった。しかし、マレーシアでの生活の中で、日本とは違う点が多くははじめは驚くことばかりだったが、いろいろな価値観があって当たり前だと自然に受け入れられるようになっていた。

マレーシアでの生活は、毎日が新鮮でとても刺激的だった。今回の研修は1つのきっかけにすぎないので、今後も英語学習を継続していきたい。また、視野を広く持ち、様々なことに目を向けて生活していきたい。

最初は不安もあったが、この研修に参加してよかったと心から思う。今回の研修を企画し引率くださった先生、マレーシア科学大学で授業を担当してくださった先生、親切にマレーシアのことや大学のことを教えてくれたバディーたちをはじめ、支えてくれた方々に感謝する。

